

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100083		
法人名	ひかりの里 有限会社		
事業所名	グループホーム ひかりの里(1階ユニット藤・2階ユニット桃)		
所在地	岡山県岡山市南区中睦187-8		
自己評価作成日	令和元年11月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	令和1年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひかりの里は、岡山市南区郊外に立地し、田園の中、四季を感じられる自然にも恵まれています。なかとう整形外科をバックに、デイサービス、有料老人ホームと併設し、全て渡り廊下で繋がっているため、他の部署との交流もあり、何より医療との連携にて早急な対応が図れ、ご家族からも信頼され、利用者様にも安心して過ごして頂いています。利用者様が住み慣れた地域で、家庭的な雰囲気の中、その人らしく暮らして頂けるように地域の方々、ご家族とのつながりを大切に一人一人にしっかりと寄り添い、また毎日元気で明るく楽しく過ごして頂けるよう、初詣・お米フェスタ・小学校の運動会や発表会などの地域行事に積極的に参加させて頂き、利用者の方と地域の方への触れ合いの機会を多く持つようにしています。その他ボランティアの慰問、小中学生の受け入れ訪問・・・等に取り組んでいます。ひかりの里の理念でもあります『誠実・希望・愛・笑顔』をモットーに日々頑張っているグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認したこのホームの優れている点は、如何なる困難が目の前に立ち塞がろうとも、力を合わせてその壁に向かってよく話し合う管理者・職員の努力ではないかと思う。例えば利用者や職員の入替わりその他の事情で問題が感じられたユニットも今は良い状況に向いている。運営推進会議を活かした取り組みもホームの運営やサービスの向上に貢献している。もちろん、なかとう整形外科を核とした法人グループの協力・協働が大きな支えとなっており、利用者やその家族の安心を維持している訳だが、職員の一一人ひとりの利用者への深い思いやいとのおしむ心が今日を築いている。また、その為の縁の下力持ちとしてケアプラン関係、その他各種記録が、綿密で情報共有しやすい。こういった基盤の築きもこのホームの支えになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目に触れる場所に事業所の理念を掲示し、日々のケアの中で意識をもって、サービスの提供に努め取り組み実践している。 又オリエンテーションにおいて説明とアンケートの実施。カンファレンス等にての話し合い実践に努めている。	この地域で長い歴史を持つ法人「ひかりの里」は「医療と介護と地域のつながり」を大切に持続してきた。この大きな理念を軸として職員はカンファレンスでは常に認識し合ったり、新入社員のオリエンテーションで指導するようにしている。	理念を常に念頭に置きながら小目標を掲げてみるのも良い。抽象的な目標ではなく、具体的・評価しやすい内容・短期間で振り返る事が出来る目標を設定してみた。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	興除神社へ初詣・春秋の祭りの参拝や、小学校の運動会・発表会の見学、農協のフェスティバルなどに参加している。事業所として地域の方々、多種多様の方、定期的なギター演奏や日本舞踊のボランティアとの交流も大切にしている。小学生・中学生の慰問、来訪による交流も定着してきている。	この南区中畦地区を中心とした地域周辺の住民がこの法人とのつながりを頼りにしている状況が例えば運営推進会議の詳細な記録からよく伺われた。地域への貢献も子供達から大人まで数々の事例が見られる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において『認知症ケア』の実例をもとに認知症の勉強をさせて頂いている。地域行事に入居者と一緒に参加させて頂き、認知症の理解を深めて頂く機会としている。中学生の職場体験、高校生のインターシップ受け入れにおいても認知症の理解と説明をさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に地域の方、民生員、行政担当者多種多様な方他GH管理者、他部署管理者、利用者様家族の参加をして頂き、活発な意見、要望等意見交換の場となっている。議事録を玄関に置き、いつでも、だれでも閲覧できるように開示している。	この会議への参加は充実しており、地域と密着すべきグループホームとしては理想的な在り方と思う。参加者からの意見も多く記録され、話し合いの中にはホームの運営やサービス向上につながる意見もよく見られる。	運営推進会議の在り方は数年前から充実した内容となっている。次のステップを考えるとすれば、議題の取り上げ方を工夫してみる事ではないかと思う。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回、行政担当者の参加あり。事業所の状況を報告し理解把握して頂き、意見やアドバイスを頂きながら、サービスの質の向上につながるように、常に連絡を取り施設運営に努めている。	以前は、問題を抱えたり利用者の困難事例で市の担当者に相談をお願いする事が多かったが、現在はほとんど無い。しかし、利用者の家族との話し合いの中での問題で指導を仰ぐ事も考えられる状況にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスや運営推進会議等にて、マニュアル作成ファイルを解読し勉強会を行い、意識の共有を図り「身体拘束0」の維持継続に努めた。施錠については危険性も高いことから、ご家族への説明を行い理解を頂いている。	以前から身体拘束ゼロを目指してケアに取り組んできたが、指導が強化されて以来、身体拘束を広義に理解し、利用者の人権の尊重に力を入れている。その一例として言葉使い・語気や岡山弁等について等、日々のコミュニケーションにも気をつけている。	運営推進会議等で身体拘束をしないケアへの取り組みが熱心に話し合われていて、日常的に心のケアが充実してきている事は明らかであると思われる。今後もカンファレンス等でも継続して欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス等でマニュアル作成ファイルを解読し、勉強会を行い周知徹底と職員の理解、認識を深めている。日頃より職員との会話の中で、変化に気を付けるよう声掛けや言葉づかいについても意識した取り組みに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で資料を基に勉強会の機会を持ち、知識・認識が深められるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族に見学に来ていただき事前に疑問や不安な点をお聞きしている。重要事項説明書の丁寧な説明をさせて頂いている。お互い納得した上で、サービス提供の開始ができるように努めている。その都度、問題点が生じた場合には納得して頂けるまでの説明に努め同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱はあるが活用できていない。契約書には内外部への相談窓口を記載し、年に一回は必ず入居者・家族アンケートを実施し集計結果を玄関に置いて開示している。運営推進会議、面会時等に、意見が頂ける環境に心がけている。日常的に話しやすい雰囲気づくりに努めている。面会時にはしっかりとコミュニケーションを図り日々ふれあいの中で思いをくみ取るように努めている。	個々の利用者・家族に対しては「ひかりの里GHダイジェスト」で日々の状況を伝えたり、面会時等では出来る限り意見や要望を伝えてもらえるよう努力している。またイベント等に参加してもらい交流を深める努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り、カンファレンス、連絡ノートの活用により、日々の中で意見や提案がいつでも言える柔軟な体制や関係が図れる環境に努めている。内容によっては全体会議で検討し、対応している。	代表者や管理者が定期的に職員に面談をして意見を聞く仕組みはないが、日々の業務の中で、またカンファレンスの時に話し合い、ホームの運営やサービスにつなぐようにしている。また問題がありそうな職員に対しては、管理者がさりげなく話しかけるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者は常に報告連絡相談は密に図っている。管理者は職員の個々の意見や提案を聞き、職場環境の把握に努めている。 職員は、利用者担当を決め責任感ややりがいを持てるような工夫に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修のお知らせを掲示し、一人でも多くの職員が参加できるよう取り組んでいる。 カンファレンス時、必要に応じて資料をもとに勉強会と介護技術取得を図るための現場研修に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来るだけ研修に参加することで同業者との情報収集に努め、情報交換、意見交換ができるように努めている。仕事に対する高いモチベーションを持ち業務に対する達成感や、その時知り得た情報は、現場に反映しサービスの質の向上に繋がるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前ご本人様ご家族様に見学して頂く。又入所前に訪問面談調査を行い情報収集に努めアセスメントを行っている。本人の状態 意向等を伺い、不安や困っていることがあれば丁寧に説明をして、安心感の構築に努めている。事前の情報収集を元にカンファレンス、申し送り等で話し合いをしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者家族の困っている事、思い、要望を伺い信頼関係の構築に努めている。どんな小さなことでも相談、助言ができる雰囲気にも努めている。本人が安心して暮らせるような信頼関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様ご家族の意向をしっかりと把握し、サービスの提供段階で、安心してサービスを受けられるように努めている。要望を反映できるよう、ゆっくりお話を聞きながら、ご本人、家族を支援していく体制づくりに努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らす意識を持ち、ゆっくり本人の能力に応じて一緒にお手伝いして頂いている。日常生活の中で、教えあったり励ましあい助け合いができる、家庭的な雰囲気を大切にしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に行事、運営推進会議等にできるだけ参加していただけるよう声掛けに努めている。面会時や毎月のお便りで本人様の様子を伝えながら、ご家族の意向もわかっている。家族との繋がりを大切にすることで協力を得ながら、行事、イベントへの参加をして頂き、ご本人様と一緒に支えていける関係づくりに努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方やボランティアの方等、また他の部署でのイベント行事への参加を通して、顔見知りの方とふれあう機会を作り、交流に努めている。ご家族 ご近所の方の訪問は 居室 リビングにてゆっくり過ごして頂き、関係が継続されるよう支援している。	同敷地内にあるデイサービスや有料老人施設からGHIに来た人にとっては、その利用者・職員がすでに馴染みの関係であり、イベント等で会う機会もあるし、配偶者が入所している人もいる。また家族と一緒に墓参りに行ったり親戚の家に行く事もあり、馴染みの関係がよく継続出来ている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの座る位置も大体決まってはいるが、職員は個々に自由に過ごせるような環境を作ったり、また入居者同士の人間関係を把握して利用者同士の会話が出来るなど、居心地よく落ち着いて過ごせるよう配慮している。又職員はイベントや行事を通し利用者同士が良好な関係が保てるよう工夫している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時、他施設への紹介や移動時には情報提供と説明に努めている。退所後においても相談があれば、その都度アドバイス、助言等もさせて頂いている。転所先への見舞い、面会等についてもご家族様が来て下さったり、連絡を取ったりしている。又ご家族様の中にはボランティアで定期的に訪問して下さっている方もおられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	バックグラウンドを踏まえ、普段の会話の中から思いやご本人の言葉を大切に、又つぶやき・表情・仕草等でも感じ取り職員間で共有しその人らしいケアに繋げている。それでも困難な場合にはご家族の協力を頂いている。	利用者の意向や思いを引き出す為にしっかり関わり、会話をするよう職員間で申し送りをして実践している事が各種の記録から確認できる。そして本人、難しい場合は家族との会話の中からニーズを把握してケアプランに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から生活歴・既往歴・環境等などの情報収集に努めている。又これまでサービスを使われていた場合、ケアマネ、相談員からの情報も得て、今まで生活していたことがホームでも継続し安心して過ごして頂けるような支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズム、心身の状態の把握と観察を記録に残し、情報の共有に努めている。日々の生活の中から本人の思いに共感し、さりげない支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等でケアマネを中心に利用者担当が、ご本人・ご家族の意向確認の上、ニーズの把握に努めながらケアプランを作成している。必要に応じて定期的評価、見直しをしている。また関係者にも連絡、相談をして実践に反映できるように努めている。	ケアプランの他に生活機能向上訓練計画(10項目)を作成して、毎日実施表をつけ利用者の状態を把握している。「ここでどう暮らしたいか」「何をしたいか」本人の気持ちに添ったプランを職員間で話し合いながら作成している。	全体的に本人の意向を反映したプランになっているが、中には意向とニーズ(課題)との連動性がなく、サービス内容が抽象的なプランもあるので、職員が共有して日々実施しやすい具体的な内容にして欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に日々の様子やケアの内容、状態変化などを記録。定期的に評価を行っている。細かな気づきや状態変化も職員間での共有を図り、必要に応じてカンファレンス、申し送りにて検討、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の思いや意向に添った援助ができるよう、ご家族への報告連絡で理解と協力が得られるよう努めている。また医療機関や専門職他の部署のアドバイスも受けながら連携を図りその時のニーズに合わせた対応ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事やイベントへの参加。小中学生の受け入れての交流に努めている。また学生やボランティアによる太鼓・歌・踊りを一緒にすることで楽しみとしている。利用者作品、写真掲示にてお互いに楽しめる環境に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時ご家族の要望の確認をしている。病院と併設していることで、利用者、ご家族様と信頼関係が築け安心して頂いている。専門診療が必要な時は専門医への紹介と情報提供に努め、スムーズな診療体制が取れている。	母体のなかとう整形外科を主治医としている人が多く、GHと連結しているので有料老人施設内を通して受診に行ける利便性があり、緊急時も365日24時間いつでも対応してもらえるので安心出来る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で状態の変化に気づき、看護師に随時報告、助言を受け適切な医療や看護が受けられるように支援している。看護師とは昼夜問わず連絡が取れる体制となっている為、何かあれば早急な対応が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療と介護の情報提供書の作成をし提示を行っている。入院中はできるだけ面会に行き、医療関係者と情報交換を行う中で連携を密に行い、早期退院となるように努めている。他施設への転所の場合もソーシャルワーカーとの情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合における対応の指針を説明し理解して頂いている。常に状態の報告に努め、更に重度化した場合、主治医と連携を図りながらご家族様、職員全員で話し合いを重ね方針を決めている。	今年100歳を前にしてホームで見送った人は、前日には面会に来た姪と楽しく会話し、当日は職員と思い出話に花を咲かせる程元気だったが、体調が急変し皆に見守られながら旅立った。「良い見送りが出来た」と職員。これまでも多くの人生の終焉に立ち会っているホームである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、施設内研修で事故対応(気道確保、体位等)に関する事は必ず指導をしている。急変や事故発生時に対応できる体制はある。定期的な応急手当の訓練は行っているが消防署の講習会、上級救命講習等に参加し実践力が身につくように努めたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等のマニュアルは備えている。定期的に災害時(夜間想定)の訓練も行い、避難経路や自動通報装置の使い方などの確認を行なっている。運営推進会議などで地域の方、ご家族の方の参加を呼びかけ、協力もお願している。	春・秋年2回火災と防災を併せて避難訓練を実施しており、風水害を想定した建物内の垂直避難では、1階の利用者全員が階段を使って2階に避難した。「避難後、各部屋をチェックして確認シールを貼るのはとても良いアイデアだ」と立ち会った消防署員から誉めてもらったと職員から聞いた。地域の消防団との連携体制もある。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないように、プライバシーに配慮した援助に努めている。その人その人に応じた関わり方や言葉づかい、態度に留意しながら対応している。個人情報の管理は慎重に行うよう職員の周知徹底に努めている。	プライバシー保護、接遇についての勉強会等をして、職員は常日頃から人生の先輩として敬う気持ちで接している。入浴・排泄介助時の羞恥心に対してもバスタオルをかける、ドアを閉める等の配慮を欠かさないように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態に合わせて『本人はどうしたいのか』本人主体となるように、職員が自然体で接する事で、会話の中から引き出せるように心がけている。また自己決定ができるように働きかけたり、言いやすい環境や関係づくりにも努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活すべての場面において、ご本人の思いを尊重し自分らしく生活できるように工夫した声掛け、援助に努めている。一日の日課はあるが、他の問題によって時間配分ができず、介護者側の都合になってしまう事もあるが、可能な限り利用者の思いに添えるよう心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向確認をしながら好きな服、着たい服を一緒に選んだり、訪問カットで好みの髪型にして頂くなど、アドバイスをしながら行っている。ご家族の協力も得ながら季節に合わせた服装ができるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設管理栄養士の元での食事提供ではあるが、季節行事・イベントの時は特別メニューで楽しみのある食事となっている。食べた後の片づけ等は一緒に行ってもらえるよう努めている。おやつ作りは、月1～2回利用者と一緒に作り、食べて楽しんで頂いている。栄養士が食事を一緒に取る機会を設け、利用者の意見を聞いたり、利用者の現状を見る中で更に楽しめるよう工夫したい。	隣接する厨房施設から毎食配膳台で運ばれてくるが、本人の嗜好を考慮して食材を変える等の配慮もしている。ミキサー食で食事介助の必要な人もいるが、普通食を自分の箸で食べられる人が多く、職員と楽しくおしゃべりしながら一緒に食べている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェック表への記入で把握に努めている。食事形態の工夫、おいしい飲み物等、必要に応じて代替えでの対応にも努めている。個々の嗜好、制限もあるが健康管理の範囲内であれば、本人の意向を尊重した援助に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々にあった口腔ケアを行い、様子を見ながら出来ていない部分のみ援助し清潔保持に努めている。口腔内のトラブルがある時は、訪問歯科と提携して、ご家族に報告連絡相談の上、随時改善できるよう支援に努めている。定期的に義歯洗浄消毒を行っている。月に一度、訪問歯科からの口腔ケアについて指導を受けている。「口腔衛生管理体制」にて助言や指導も受けている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンを知り、その人その人に合った援助に努めている。何気ない行動や仕草等に気を付け、トイレでの排泄に向けて援助の工夫に取り組んでいる。	排泄が全くの自立で失敗もなく布パンツで過ごしている人が2名。その他はリハビリパンツ、パット、夜間のみ紙おしめやPTイレ使用等、状態によって対応している。基本はトイレ座位での排泄であるが、男性の中にはこれまでの生活習慣(立位)を続けている人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操への参加を促し、十分な水分を摂ってもらうよう声掛けに努めている。時として起床時ミルクを飲んでもらい自然排便の促しに努めている。必要に応じて、医師に報告指示を受け、下剤服用で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に応じて毎日でも入れるようにしている。希望されない時には、様子を見ながら又タイミングを図って声掛けをし、援助の工夫に努めている。清拭・足浴・一般浴が困難になった場合は、隣接の有料老人ホームの特浴での対応とさせて頂いている。	浴槽に浸かってゆっくり入ってもらう人が多いが、二人介助でシャワー浴の人もある。週2回の入浴を基本としているが、拒否のある人でも大休週1回は入浴出来ていると聞いた。時には「入浴拒否が続く場合、どの様にしたら良いと思うか」等、職員間で工夫したり対応方法を話し合う事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握して体調や状況に応じて、自由に休息できるように支援しているが、夜の安眠の妨げになるようであれば、様子見ながらリビングで過ごして頂いている。夜間眠れない方は居室で、話を聞いたり、お茶を飲んでもらい、寄り添い安眠できるように工夫している。安心して入眠ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師の指示のもと、報告・連絡・相談を密に取り、個々の把握に努めている。職員は各自薬の副作用や用法、容量をファイルで確認し、理解に努めている。薬の変更や追加があった場合は職員間で共有し、状態の様子観察に努め、医師、看護師へ報告し記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を踏まえて、趣味・嗜好・特技等を考慮しながら日常生活場面において、その方の能力に応じて役割を分担してもらう事で楽しみにもなり、気分転換となるような作業、レク等のプログラムの提供に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望に応じて散歩、外気浴、他部署等の交流にて気分転換を行ってもらっている。又、ご家族の協力を得ながら買い物、お墓参り、外食、外泊等もして頂いている。施設行事もあり多くの参加を促し、地域の方との触れ合いも増えるような支援に努めたい。	数名の家族も参加して花見に出かけたり、初詣や地域の神社の秋祭り等も楽しんでいる。法人内の合同イベントに出かける事もよくあり非日常を味わう機会を大切にしているが、家族の協力を得て個別外出支援にも力を入れている。	外出等、協力的な家族もいるが、入所が長くなると月日が経つにつれ家族の足が遠のく傾向になるのは否めない。職員間で話し合い、足が遠のかない工夫も考えてみて欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が自己管理ができないため基本的にはホームで管理している。本人希望あれば能力に応じて、ご家族了解のもと、少しのお金は持っている。欲しいものがあるときは立替での対応としている。本人の要求には応じている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも使用できるようにはしている。 ご家族の了解のもと要望者には固定電話のある所まで付き添い、取次援助としている。お手紙、はがき等出したい希望があれば付き添い援助に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビングに利用者様が作成した作品(書道・ちぎり絵・写真等)を掲示している。利用者様が快適に過ごせるように、室温管理等の環境整備に努めている。清潔で季節感を感じられるように気を付けている。玄関、リビングに、家庭的な明るい雰囲気づくりに心がけ季節の花も飾っている。不快や混乱を招かないように十分配慮している。	広いリビングの中には和室やベランダもあり、落ち着ける空間になっていて、和室にある日当たりの良い窓際の椅子が自分の居場所になっている人もいます。壁の展示物にも季節感があり、リビングに活けてある花を見ながらAさんが「きれいだなあ」と言いながら花の名前を教えてくれた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間の中、時には一人でゆっくり過ごせる場所として、和室に、椅子・ソファを置き、利用してもらっている。又リビングの長ソファでは気の合った人同士が、テレビを観たり、ゆっくり談話ができるよう工夫している。個人やグループで過ごす時間も大切にできるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の理解と協力を得て、テレビ タンス 机 椅子 愛着服等、馴染みある物を持ち込んで頂き、居心地よく、落ち着き安心して過ごして頂ける環境に配慮している。	「下着は部屋に干す」と言うBさんの部屋には洗濯物干しが置いてあり、スポーツ番組を観るのが好きなCさんの部屋には大きなテレビがある等、皆それぞれに自分が過ごしやすい居室作りをしているが、その人の状況によっては敢えて物を置かないシンプルな部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室は目印等にて場所がはっきりわかるように工夫している。リビング周りには、手すりを付け、安全な移動ができるように環境整備に努めている。他の部署に行く際も、屋根付き渡り廊下になっている為、雨の日も安全安心な移動ができている。その人の能力に応じた環境整備を行い、転倒転落防止に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容